

# 海外労働事情

## フランス

### 新大統領にサルコジ氏

フランスで五年ぶりとなる大統領選の決戦投票が五月六日行われ、即日開票の結果、与党・国民運動連合（UMP）のニコラ・サルコジ党首が、社会党候補セゴレヌ・ロワイヤル氏を破り当選した。仏大統領の交代は一九九五年の現職シラク大統領以来一二年ぶりとなる。

サルコジ氏は今年に入ってから選挙戦では一貫して他候補をリードしてきた。四月二二日の第一次選挙ではロワイヤル氏他候補を上回る得票率三二%で首位に立ちそのまま独走。選挙戦終盤での逆転を狙ったロワイヤル候補の追い上げを振り切った格好だ。



パリのエリゼ宮（大統領府）

雇用が主な争点の一つとなった今回の選挙の関心は高く、仏内務省の発表によると、全体の投票率は八三・九七%で、サルコジ氏は五三・〇六%、ロワイヤル氏は四六・九四%という得票率（仏内務省、暫定値）だった。

フランスは特に若年層の失業率が高く、社会不安の大きな原因となっている。二〇〇五年にはパリ近郊でアフリカ系少年が変電所に逃げ込み感電死した事件をきっかけに、移民系の若者による暴動が全国に広がった。現在も低所得層を中心に政府への不満は強く、最近もパリ北駅で若者と警官隊が衝突する騒ぎが起きた。

サルコジ氏は内相として、こうした暴動に厳しい対応を取ることで支持を集めてきた。移民問題では、学歴や職業能力などで流入移民の選別化を促進する政策への転換を図っている。また選挙戦では「より働き、より稼ぐ」をスローガンに掲げ、週三五時間労働制など雇用規制の緩和や、企業の社会保障負担の軽減などを主張。競争促進を基調に経済成長を促す考えだ。

対するロワイヤル陣営は最低賃金の引き上げなど社会保障の充実を訴えたが、競争重視政策を掲げ雇用不安、犯罪増による

社会不安を乗り切ろうとする右派与党陣営の戦略の前に、あと一步届かなかつたようだ。競争重視政策に一定の支持を与えたとと言えるフランスの選択。雇用政策の改革など今後の行方が注目される。

【出所】仏内務省、主要各紙、NNA

（国際研究部）

## アメリカ

### ウォルマートとSEIUが国民皆健康保険制度導入へ合意

アメリカ最大の雇用主であるウォルマートと、ウォルマートを最大の敵対相手とする労働組合SEIUが二月七日、国民皆健康保険制度の導入にむけて協力することに合意した。絶えず敵対関係にある両者が、重要な課題であるにも関わらず合意に



こぎつけたことは非常に画期的であると専門家はみている。

従業員への医療保険制度の適用は、使用者側および組合側においても重要な問題。SEIUはこれまで、組合労働者のための医療保険制度を使用者側に負担させることを最重要課題の一つとして位置づけてきた。

一方の使用者側も、増大する従業員への医療保険費にどのように対応するかが大きな課題であった。今回の合意は、SEIUが「使用者、従業員、および国の三者が負担する国民皆健康保険制度を二〇一二年に導入しよう」とする提案を行い、ウォルマートがその動きに賛同する形となったもの。ウォルマート以外にも、AT&T、インテルなどの大企業および複数の非営利組織がこの案に賛同している模様だ。

【参考資料】New York Times, "Wal-Mart and a Union unite, at least on health policy," February 7, 2007.

（国際研究部）

## イギリス

### 労働党の支持率急落

ンド・ウェールズ議会選を間近に控え、与党労働党の支持率が急落している。調査会社コミュニケーショントリサーチがインディペンデントの委託で実施した最新アンケートによると、二七%と先月から四ポイント後退したことが判明した。これは一九八三年以降で最低の水準となる。調査が行われたのは四月中旬であり、同党が上院議員として推薦する見返りに多額の融資を不正に受け取っていた疑惑で、週末にブレア首相の側近が起訴相当と判断されたと報じられたのが響いたとの見方もあるようだ。

一方、最大野党の保守党は支持率を一ポイント上げ、三六%とした。自由民主党も二〇%から二二%に伸ばしている。

就任一〇周年を迎えたブレア首相は、テレビ番組などで退陣表明する考えをほのめかすなど、いよいよ首相交代の雰囲気が強まっている。首相は二〇〇五年に労働党政権として初の三期続投を決めたものの、イラク戦争への対応などをめぐり人気は急落した。党内からも退任の時期を明らかにするよう求める声が強まり、昨年九月に向こう一年以内に政権の座を降りる意向を示したが、具体的なスケジュールについては言及を避けていた。後任にはブラウン財務相が有力視されている。

（提供…NNA）

イングランド地方選（ロンドンなど一部除く）とスコットラ